

CONTENTS

① ISO14001格付けで総合1位に

② MICニュース

MIチェコによるSQAS認証
MIC無料セミナーのご案内
information

③ 連載よみもの

MICリレーエッセイ
連載読み物「環境とISO14001」

④ 審査の現場から

お客様紹介
(パプ日立ソフト株式会社)
新連載「QC7つ道具」

⑤ お客様からのお便り

高品質を求めるための運用へ
(株式会社六協)
スタッフ全員での認証取得
(みはら歯科矯正クリニック)

⑥ 研修コースのご案内

ちょっといっぷく
コースのご紹介/受講生からの
お便り

ISO14001格付けで総合1位を獲得しました

MIC 環境認証部長 五味 憲一
MIC 環境主任審査役 郷古 宣昭

ISOの専門誌『月刊アイソス』(システム規格社)と電通リサーチが共同で実施した受審満足度調査において、ISO9001の部でMICが審査機関ランキングで総合第4位、ISO14001の部で総合第1位を獲得しました。

これはMICの審査員をはじめ、ご支援賜りました皆様のおかげであり、心から感謝申し上げる次第です。お客様から高い評価をいただいた理由はいくつかの切り口から解析されておりますが、基本的にはMICが当初より心がけている審査方針が影響しているものと考えております。

その第一方針とは、MICは発足当時から「ビジョンとミッション」の中に掲げているように「認証を通して小規模企業の未来に変革をもたらす触媒としてお役に立つことを目指して」、今日まで努力をして参ったことです。このことは何にもまして、お客様を大切に、顧客第一で行動することに他なりません。

第二の方針とは、MICはISO9001やISO14001の発祥の地である英国の源流を受け継いで、本質に基づいた審査を実施することです。それはISO14001でいうなら 法規制を確実に遵守するために、法規制を的確に特定し、実行し、確認することを徹底し、環境汚染リスクの管理を重視し、次世代に持続可能な環境と自身の事業を残すための高いパフォーマンスを出力することを視野に入れて審査をして参ったということです。このことはISO9001やISO14001の目的である持続可能性を重視することを意味しております。

以上、二つの方針はISO9001やISO14001の認証制度に対する社会的評価が試されている今日、その重要性が一層求められてきていると思われまふ。今回の格付け評価でも、MICといたしましては、今後継続的に改善していかなければならない、いくつかの評価項目が見えております。したがって、今回の格付け評価に満足することなく、お客様である組織の社会的信頼性を高めること、及び、次世代に継続的發展をもたらす触媒となることを目指し、審査員・スタッフともども一層精進して参る決意です。

今後とも、ご支援賜りますようお願い申し上げます。



発行

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社
大阪事務所
〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原4-1-14
住友生命新大阪北ビル13階
Tel: (06) 6150-0571 Fax: (06) 6150-0575
http://www.moodygroup.co.jp/mic_index.htm



Moody International Czech Republic SQAS認証開始

ムーディー・インターナショナル・チェコ(Mチェコ)は、ヨーロッパ化学産業協会(CEFC)と協力し、CEFCの輸送部門における安全評価制度“SQAS(Safety and Quality Assessment System)”の審査認証を開始しました。SQASとは、輸送会社における品質、安全性、環境パフォーマンスを統一の方式で独立の第三者が評価するシステムで、これにより、化学会社ごとの多様な評価が回避でき、輸送サービス会社を選択する際にも役立てることができます。Mチェコの顧客には輸送会社が多く、共通の統合基準を求める声が多数上がっていたことから、SQASの二つのカテゴリーで審査資格を得ました。現在中東欧でSQAS審査を実施できる審査機関は、Mチェコのみです。

このシステムは、提供しているサービスの質自体や安全性を保証するものではありませんが、輸送サービス会社が化学会社の要求条件に応えられているかどうかを検証し、継続的改善を評価する仕組みですので、これにより、自社の長所・短所に関するフィードバックを有効に活用することができます。

SQASへの関心をより高めるため、先日Mチェコでは、プラハにてチェコ国内の運輸物流会社を集めた会合を開き、SQASの要求事項や利点について紹介しました。これまでMチェコでSQAS審査認証を行った実績は4件ですが、チェコ国内だけでなくオーストリア、ポーランド、スロバキアの物流サービス会社の審査認証も控えており、今後の展開に期待したいと考えております。

MIC無料セミナーのご案内

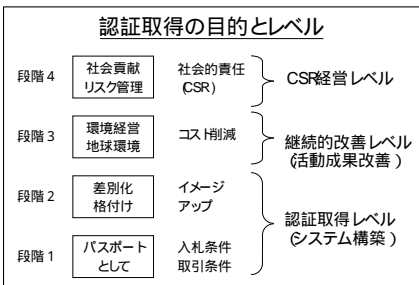
ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション(MIC)では、これから品質・環境マネジメントシステムの導入・取得をお考えの企業の皆様を対象に無料セミナーを開催しております。

大阪事務所では、8月20日にISO14001の無料セミナーを開催し、顧客企業の皆様を中心にご参加頂きました。同セミナーでは、弊社の環境研修でも講師を務める郷古が、P-D-C-Aサイクルの重要性、認証取得の目的とレベル(左下図参照)など、経営に役立つISO14001取得について、審査の流れや構築のポイントなどの説明を行いました。このセミナーについては、業界紙「物流ウィークリー」(8月30日付)でも紹介頂いております。

今後、弊社東京本社・大阪事務所で開催している無料セミナーのスケジュールは右表の通りとなっております。

今後も、皆様に役立てて頂けるようなセミナーを開催していきたいと考えております。ご要望・ご意見などございましたら、お気軽に弊社までお寄せください。尚、勝手なお願いではございますが、お知り合いでこれからISO9001、14001等の取得を検討されている企業がおられましたら、本セミナーをご案内頂ければ幸いです。

無料セミナースケジュール	
東京	開催日】 ISO14001新規取得企業向け無料セミナー 11月24日 11月25日 12月15日 12月16日 2005年1月27日 2005年1月28日 時間】 午前の部 10:00-12:30 / 午後の部 14:00-16:30 会場】 弊社東京本社会議室(7F)
	開催日】 ISO9001新規取得企業向け無料セミナー 12月1日 2005年1月27日 ISO14001新規取得企業向け無料セミナー 12月8日 2005年1月20日 時間】 13:30-16:00(全日程) 会場】 弊社大阪事務所会議室
お申込商合	参加お申込 お問合せは、本紙最終ページ記載の弊社東京本社または大阪事務所までお願い致します。 上記の日程はお申込状況により変更・中止される場合がございますので予めご了承ください。



information

CSRのISO規格化の方針が決まる

6月21日から25日に掛けてスウェーデンのストックホルムで開催されたISOの会議において、社会的責任に関する国際規格(SR規格)を作成することが決定されました。ISOおよび世間一般では、これまでCSR企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility)と呼ばれていましたが、社会的責任を負うのは企業だけではないという意見があり、議論の結果、企業を表すCが抜け、新しく作成される規格はSR規格となりました。

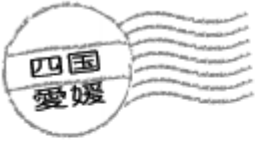
SR規格は、ISO9001やISO14001のような認証登録の要求事項とはせず、企業、組織等の行動のベースとなる指針規格として作成されます。ただ、一部ではまだ「認証」も考慮したものとすべきとの意見もあるようです。

SR規格の完成時期としては、2007年ごろが見込まれています。しかしながら、社会的責任というのは、人権、環境保護、社会貢献等種々の側面をもつこと、文化、宗教等により意識が異なりかつそれも時代により変化すること、例えば、ヨーロッパでは雇用問題に重きが置かれたり、女性の雇用問題は欧米と中東では異なった考えがあること、また、今回は、規格作成に発展途上国、NGO、消費者、産業界等、異なる利害関係を持つ人が参加すること、これらから、SR規格完成までに紆余曲折が予想されます。

近年、国内外を問わず、相次ぎ露見した倫理観に欠けた企業不祥事により、それら企業は倒産および大きな経営危機に陥りました。これによるコミュニケーションの高度化により、いっしょに情報も悪い情報も短時間に多くの利害関係者に伝わるようになりました。認証を目的とした規格となるかは別として、これから作成されるSR規格が組織の活動をチェックする指針として活用される日が来ると思います。

MICリレーエッセイ④

今号は、四国地区愛媛からのエッセイをお楽しみください。次回は、中国地区広島からお届けします。



四国地区

松山 新居浜
西条市

From 四国地区担当
田中 修司

「道後温泉、坊ちゃん、みかん・・・」。愛媛と訊くとたいいていの人がそう答えますが、それ以外にも色々あるのですよ。

お薦めは、しまなみ街道の島々とそれを繋ぐ10の橋。「世界初の三連吊橋」「世界一の斜張橋」等、世界最高水準の技術で作られているのですが、環境と人に優しい景観設計がされています。特にユニークなのは、車はもちろん、人が歩いても自転車でも渡れるのです。青い海に浮かぶ多島美を背景に、行き交う船を見下ろしながら、まるで空中散歩です。夕方には海が黄金色に輝き、やがて茜一色に・・・薄暗い海峡に汽笛がなり響き、吊橋のライトアップが浮かび上がります。

自然環境抜群の四国に住んでいますので、ISO14001の営業には自然と力が入ります。地球を救うメッセンジャーとばかり、四国路を西へ東へ、さながら「お遍路の旅」なのである。

連載「環境とISO14001」④

第4回「環境側面を特定する」

MIC 環境主任審査役 郷古 宣昭 Nobuaki Goko

前回は「環境側面」とは何か、そして著しい環境側面をどのように展開するかについて話しました。今回はその環境側面の特定方法、著しい環境側面の決定方法についてお話します。

実は、環境側面の特定方法、著しい環境側面の決定方法について、規格は何も規定しておりません。それゆえ、どんな方法でも良いわけですが、これを適切にやらぬとマネジメントシステムは無意味なものになってしまいます。「適切」とは簡単に言うと 環境側面を漏れなく拾い上げ、 定量化し、 データに基づいて重要度を評価する、ということになります。

まず、環境側面を漏れなく拾い上げるためには、できるだけ広い視点が必要です。すなわち、次のような対象を考慮します。

- 活動、製品及びサービスの全て。製品とは生産された物だけでなく、サービスの結果や成果物、たとえば建設における建築物や道路も意味します。
- 事業活動に必要な原材料、助剤、エネルギーや用水等のインプット、活動によって出力される製品、廃棄物、排ガス、排水、騒音などのアウトプット。
- 現在だけでなく、過去の活動で残った汚染や不良製品。また、計画中の新製品や新設備など。
- 通常時だけでなく、立上げ、停止、点検修理などの非定常時、さらには停電、設備破損、衝突事故などの緊急時に起こるかもしれないリスク。
- 原材料に含まれる化学物質、梱包材料、供給者の活動など直接管理できない作業でも影響を及ぼしうる事項。

これらを網羅するために自社工程の前後の工程を含む広い範囲でフロー図を作成することは意味があります。それまで気づかなかった環境側面が見えてくることがあるからです。ただ、必要以上に細分化された作業解析は時間のムダばかりでなく大局を見失う可能性があるので注意すべきです。また、よく見かけるブレインストーミング方式でも、予め広い視点から対象範囲を決めて見落としがないように配慮すべきでしょう。

次に、拾い出した環境側面を定量化するわけですが、自社の工程での電力、燃料、廃棄物量はもちろん、原材料の中の有害化学物質の含有量や、製品が顧客に渡ってからの消費エネルギーや環境負荷、寿命、リサイクルの難易度についてもできる範囲で、調べることが望まれます。つまり、製品のライフサイクルに沿った把握が必要です。なぜなら、一般に、製品になってからの環境影響が大きいことが多く、それゆえ、設計における環境側面が重要な意味を持つからです。

資源の消費については枯渇度を考慮します。その最たるものが、パソコンや携帯電話、自動車排ガス処理用触媒、分析試薬に使われる貴金属です。金や銀は今のペースで使用すると17 - 8年、どこにでもあるような銅や鉛でも22 - 28年しかもちません。また、水も地球規模では不足しており、潤沢といわれている日本でも食糧自給率を改善しようとするとなちまち水不足をきたします。また、石炭・石油・ガス等の化石燃料の消費は資源の枯渇というより地球温暖化、酸性雨、光化学スモッグの原因となる大気汚染と捉えるべきでしょう。

以上、環境側面は間接影響を含めた広い視点から拾い出すこと、製品のライフサイクルを考慮すること、汚染は起こりうるリスクを想起すること、資源の消費は枯渇度を考慮すべきことを強調しました。次回は著しい環境側面の決定についてお話します。

認証取得組織のご紹介ーバブ日立ソフト株式会社様

日立グループのバブ日立ソフト株式会社様が、弊社で ISO9001 2000の認証を取得され、2004年 9月 22日、同社社長の広瀬和彦様（右下写真 左）に認証登録証明書が手渡されました。

バブ日立ソフト様は、広島県呉市に本社を持つ ITソリューション会社で、今回認証を受けられたのは、同社の事業の柱のひとつである自社開発パッケージソフトと社会性のある公共システム開発など、社会の基盤を支えるシステムの担当部門の方々に、それぞれのソフトは非常に高い信頼性、効率性、安全性が要求されています。

近年、ソフトウェア業界においても、ソフトウェアの品質向上、すなわち信頼性確保と言う面から、ISO9001認証取得が年々増加しており、企業の信頼性に対する一つの判断基準になってきています。同社の社長の広瀬様は今回の認証取得に際して、

『大切なことは ISOを取得することが目的ではなく、ISOを一つの手段として、ソフトウェア開発の品質向上を継続的に改善していくことにより顧客満足度を上げ、結果として会社経営目標値を達成することだと思っています。』と述べられています。

また、同社は今後 ISOの取り組みを全社に広げられることも検討されるそうです。

弊社もバブ日立ソフト様の経営目標達成に対して、ISO9001の審査を通して、微力ながらサポートさせていただければと考えております。



<http://www.bhsk.co.jp/>

QC7つ道具 その 「パレート図とパレートの法則」

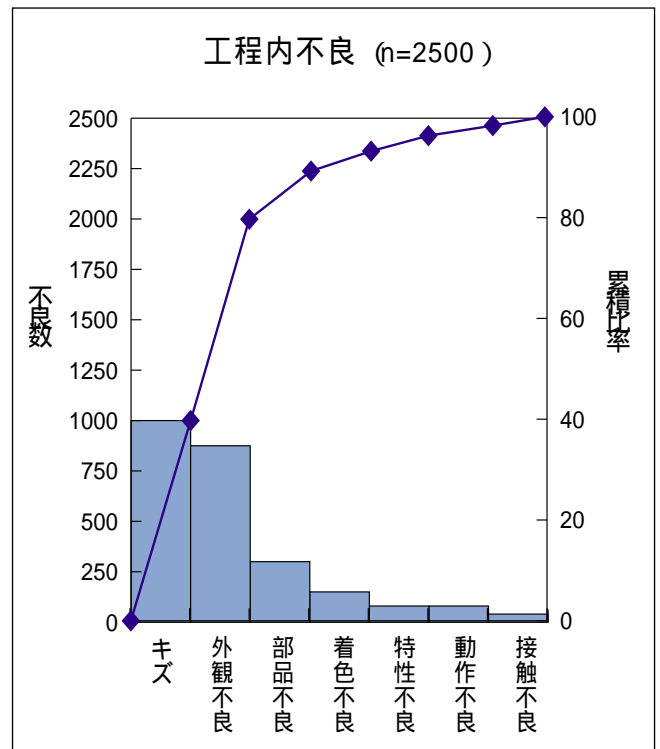
前号から品質管理及び品質改善を実施していくための手法「QC7つ道具」を一つずつ紹介させて頂いております。今回は「パレート図」についてです。

パレート図とは、あることについて、その内容を分類し、それらを大きい順に並べ累積数を示した図のことで、例えば、顧客別売り上げ、原因別欠陥数といった種々のものが作れます。パレート図をつくる目的は、なにがその業務（もしくは問題）のキーであるかを発見することです。

パレート図を作成した際に見られる傾向として、「パレートの法則」があります。これは、別名2:8の法則とも言われており、いろいろなところで使用されています。例えば、商品の品質管理で欠陥種別が10種あった場合、まず、その最上位の2つを改良すると、全体の80%の効果が期待できるというものです。ここから、**重要なものは僅かしかない**

ということが言えます。足下の蟻さんに気をとられて、頭上の象をみすごしていませんか？皆さんもパレート図を上手に使って、効率的な品質改善に取り組んでください。

次回は「散布図」についてご説明します。





お客さまからのお便り



高品質を求めるための運用へ

株式会社六協 (ISO 9001:2000(認証登録))
総務部 赤羽 孝仁

はじめまして。弊社は、長野県内で建設業を営んでおります。弊社の ISO 900 取得までと、その後についてお話をさせて頂きたいと思っております。

弊社は、今から約 3 年半前の 2001 年 1 月に ISO 9001 を取得、昨年の 8 月に 2000 年版へ無事に移行することができました。

ISO 900 取得までは ISO という存在すらわからず、コンサルタント会社を交えて数回に及ぶ勉強会の実施や内部監査員の教育等様々な苦労があり、現在でもさらなる自然体での ISO 運用を目指して、社員全員が一丸となってがんばっています。

そもそも当社が ISO 9001 の取得を目指したのは官公庁の入札に対して有利になるのでは・・・ということが原点でした。しかし現状は ISO 9001 の認証についてはある程度評価してくれているものの、適用範囲が企業によって営業所単位のものもあれば、営業所も含めて全社を適用範囲にしているところと、いろいろなケースがあるため、公平さを欠く等の理由で消極的な部分が見受けられます。現状は技術力等ということで ISO 900 認証取得の加点と災害協定への参加や除雪業務受

託等の点数と変わりありません。(今後も検討をしていくのですが・・・)それが高いか低いかわかりませんが、ISO 取得に対して官庁の意識がもう少し向上しなければ建設業者の ISO 離れが進んでいくのではないかと感じてしまうのは私だけでしょうか。入札のためだけの ISO 取得から高品質を求めるための ISO 運用に意識も変化してきたのも事実です。

ISO 9001 を取得して数回の審査を受け、指摘をされることも幾度となくあり、その時は苦労だと思いますが、決して否定をしているのではなく、助言をしてきてると取ることができるようになりました。決して ISO は悪くないと思っておりますよ。



スタッフ全員での認証取得

医療法人社団 医仁会 みはら歯科矯正クリニック (ISO 1400 認証登録)
院長 村井 茂



当院が、ISO 1400 認証取得を目指したのは 2001 年 11 月、函館にありますテクノポリス函館(北海道立工業技術センター)に相談したのがキッカケです。ISO によろやく関心が高まり、北海道庁が、ISO 認証取得企業に援助をしていると伺いましたが、すでにその年度の援助の予算が無いとのことで、

翌年の 4 月にあらためて申し込みました。しかし、調べてみますと、医療関係は援助の対象にならないことが分かり、挫折しうになりました。いろいろ悩んだ結果、可能性だけ追求しようと考え、すでに、ISO 1400 認証取得されている歯科医院あるとのことで、広島県呉市までお伺いし、いろいろお聞きしました。

また、函館に ISO 1400 認証取得に協力していただける機関を探しましたが、皆無で、ただ一人、ISO 9001 の審査員のコースを受けられた方を見つけ、その方にご相談、および取得のための仕組みその他について、7、8 回教えていただくためのミーティングをお願いいたしました。以上からコンサルタント会社をお願いせずに当院のスタッフのみでシステム構築することとし、かつ当院の規模でも親身になっていただけるような審査機関を探しました。この間、2002 年には当院の歯科衛生士高島が ISO 14001 の内部監査員の試験に合格し、本格的に週一回勉強会および資料づくりを、担当を決め、総勢 7 名で開始したわけです。当院では、以前より歯科診療台に一台づつコンピュータを配置し LAN 構築していたため、また全員が歯科衛生士、歯科技工士にもかかわらず、エクセル、ワード、パワーポイント、フォ

トショップは使用していたため、各自の仕事量が多いものの、順調に書類が作成できましたことは、幸いでした。

ある程度目途がついた段階で、貴社を含め 3 社に絞って矯正歯科関係の学会の仕事をお願いしている関係で、ほぼ毎月東京に行きますので、その都度面接させていただきましたところ、いろいろな面で、小規模な矯正歯科関係の医療機関でも大切に考えていただけるようだと感じたため、貴社に審査をお願いすることになりました。一次審査を 7 月に受け、いろいろなチェックを指摘され、2 か月後に二次審査のための施設整備およびシステムの再構築を行いました。これもすべて手作りで行いました。したがって、ほとんどすべてが、シロウトが初めて考え、作り上げ、二次審査までの準備を行ったわけです。誰にも相談出来ず、会議で、全員で考えたことを一つづつ、ただ実現するのみで準備しましたが、二次審査の 2 週間前より全員が病院を出るのが午後 1 時を過ぎ、1 週間前からは午前様の日が続き、審査の日を迎えました。落ちたらどうしようかと不安感を全員が感じながらあらかじめ準備した回答を復唱し、二次審査を受けましたが、「認証を推薦します」と言われた瞬間、本当に全員で喜んだことを忘れられない思い出として覚えております。その日の夜は、ご苦労さん会を開き、夜遅くまでお互いに喜びました。

医療機関で ISO 1400 認証取得した機関は、全国的にもまだまだ数が少なく、かつコンサルタントをお願いしないで取得できたのは日本で唯一と自負しております。当院のスタッフに感謝するとともに、機会がありましたらこれらのノウハウを、これから受けられる歯科医院に、ぜひ伝え、教えたいと強く思う次第です。景気が冷え込み、歯科関係でも経営状態も非常に厳しくなっておりますが、職員全体の意識の改善にも、強い影響をあたえる良い機会であったと考え、貴社に深く感謝しております。

情報セキュリティマネジメントシステムに関するアンケートご協力のお礼

前号(号)送付の折に、ご協力をお願いしましたアンケートに対し、多数の方々から回答を頂き、誠にありがとうございました。お寄せ頂きましたご意見は、弊社の今後の活動に反映させ、充実したサービスを提供できるよう努めて参りたいと思っております。アンケートにご協力頂きました方々へ改めて御礼申し上げます。

尚、ご回答を頂きました方の中から抽選で以下のお客様にお礼の品をお送りさせて頂きました。

<当選者> 株式会社原田組 工藤久美子様 / 株式会社総北海 北沢淳様 / 青水工業株式会社 佐藤秀幸様 他 名



今回は、CSRの規格化の話に関連し、国際規格が出来上がるまでのプロセスについて簡単にご説明したいと思います。ISO規格は、「総意」「業界全体」「任意」の3つの方針に基づき、次の6つの段階を経て作成されます。1)提案段階:新業務項目提案(NP)が提出され、その必要性を審議 2)作成段階:作業グループにて検討、作業原案(WD)を作成 3)委員会段階:委員会原案(CD)として登録、専門委員会にて検討 4)照会段階:国際規格案(DIS)として、全ISO会員国団体による5ヶ月投票実施 5)承認段階:最終国際規格案(FDIS)として、全ISO会員国団体による2ヶ月投票実施 6)発行段階:承認されると、国際規格(IS)として発行。通常このプロセスは、36ヶ月以内に行われ、発行後少なくとも5年に一度は、定期的な見直しを実施されています。

研修コースのご案内

MICでは、これから認証取得を希望される企業や、既に導入され、さらに効果的な運用を目指される組織の皆様方、また、資格取得を目指しておられる個人の方にも役立てて頂けるよう、各種研修コースをご用意しております。

審査員研修コース

- ISO9001 2000
IRCA認定 ATCA基準 審査員研修コース
(5日間、給付金コースは6日間)
 - ISO14001
IEMA認定 審査員研修コース
(5日間、給付金コースは6日間)
- 開催地】東京・大阪

内部監査員研修コース

- ISO9001 2000 (2日間)
 - ISO14001 (2日間)
- 開催地】東京・大阪

～ 受講生からのお便り ～

ムーディーでの審査員コースを受講して

品質(2003年10月)環境審査員コース(2004年2月)受講
藤本 社会保険労務士事務所 社会保険労務士 藤本 博史

私は、大阪で社会保険労務士事務所を営んでいます。主な業務は、労働法等の法律相談、就業規則作成、賃金設計、助成金申請、年金相談等を行っています。MICには伯父の経営する会社がISO9001認証取得したことから紹介して頂き、審査員コースを受講させて頂きました。

人事労務コンサルタントとしてのスキルアップのため、ISO9001、ISO14001審査員コースを受講しましたが、審査員コースを受講して実感したことは、ISOの規格要求事項を満たすために用いられている数々の労務管理手法等には魅せられる部分が多く、ISOが規格であること、並びに認証取得を望む企業様を対象とすることの意義に少しでも触れさせて頂け、今後の業務にたいへん有意義であったと思います。

受講後は、ISOに深い関心を持ち、現在はMICの情報交換会で知り合いました方々からの誘いで、統合マネジメントシステムの勉強会に参加しておりますが、ISOを通じて様々な方とお知り合いになれるなど、MICにお世話になりましたことを深く感謝しています。

社会保険労務士という職業柄、企業様には「儲けて」頂くことを念頭に業務を行っています。儲かるという言葉は「信じる者」と書かれますが、私もISOを信じ、積極的に業務に取り入れたいと考えていますし、この素晴らしいマネジメントシステムの効果を皆様にも実感して頂きたいと思っております。今後とも御指導、御鞭撻のほど宜しくお願い致します。

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社

<http://www.moodygroup.co.jp>

東京本社

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2日本橋ビル4F
TEL:(03)3669-7408 FAX:(03)3669-7410
E-mail:mi-certification@moodygroup.co.jp

大阪事務所

〒532-0011 大阪市淀川区西中島6-1-1新大阪プライムタワー5F
TEL:(06)6305-3277 FAX:(06)6305-3287
E-mail:mic-osaka@moodygroup.co.jp